

Ⅱ 生活の流れを捉えた生活場面における 福祉用具・住宅改修

1 福祉用具・住宅改修アセスメント

介護保険における支援は、高齢者がどのような生活を過ごしたいか、そのためにどのような支援が必要かを考えた介護サービス計画（以下「ケアプラン」という）に基づき、サービスを利用します。

福祉用具・住宅改修による支援を考える際も、生活場面における動作・行為の一連の流れや動線を踏まえ、高齢者の自立支援のために適切な支援ポイントを見極めることが必要です。

ここでは、福祉用具と住宅改修を検討する際に必要なアセスメントとして、高齢者の「生活」とそのための「動き」を確認し、身体状況や住宅環境における課題が何かを明らかにして、本当に必要な支援のポイントをおさえます。

例えば町営住宅に一人で生活している梅木友蔵さん(仮名：76歳)を例にみてみましょう。

友蔵さんは一昨年に妻を亡くし、子ども達はそれぞれ世帯をもって町を離れて居住しているため、一人で生活を送っています。半年前に脳梗塞で倒れ、左側の手足に不自由がありますが、自宅での生活を希望され2ヶ月前に退院しました。現在、介護保険制度の要介護認定では要介護2の認定を受け、週1回のデイサービスの利用と、毎夕食に配食サービスを利用しています。

日常生活は杖をついてゆっくりと歩けますが、外出の際には玄関前にある外階段（5段）を降りるのが億劫で、最近は家の中で過ごすことが多くなっています。

一日の大半を居間のソファーに座り、テレビを見て過ごしていますが、トイレがちかく、行くのも面倒なため水分をあまり摂取していない様です。また、トイレは洋式ですが、身体の大きな友蔵さんにはお尻を拭くのも片手では不安定な体勢になるため、辛いようです。

夜は和室にある家具調ベッドで寝ています。退院時は問題なくベッドから立ち上がることができましたが、最近ではベッドの低さから立ち上がりに苦労してるようです。

入浴はデイサービスで済ませ、家で入ることはまずありませんが、家事全般において困難な部分が多々見られ、使いっぱなし、脱ぎっぱなしの物が所々に落ちており、とても清潔とは言えない状況で生活しています。

友蔵さんとしては、「トイレが面倒なんだ。」と言っていますが、一人で安心して生活していくためにも、ただトイレだけの問題ではなく、検討していかなければならない課題があるようです。

あなたならケアプランとしてどのような支援目標を考え、そのために必要な支援サービスを組んでいこうと考えますか？そこで大切なのは、もう一度友蔵さんの身体状況や生活スタイルを確認し、何が困難で必要な支援が何なのかアセスメントをしっかりと行うことです。

皆さんも、各々のケースに照らし合わせて、本当に必要な支援ポイントを確認しましょう。

洗面所

現 状	●洗濯時のみ使用 ●洗濯物が取り出しにくい
支援目標	●洗顔・歯磨きを洗面所で行う ●安全に洗濯を行う
支 援	貸 手すりの取付け 外 いすの購入

浴室

現 状	●入浴はデイのみ ●自宅では入らない
支援目標	●自宅での入浴も検討する
支 援	貸 手すりの取付け 購 移乗用バスボード

